



近隣の人々にスポーツを楽しむ場として親しまれている、東京都目黒区の碑文谷にある碑文谷公園。この碑文谷公園一帯は、人々の憩いの場となっている。碑文谷公園には、体育館、野球場、庭球場があり、スポーツ振興くじ(toto-BIG)の収益が役立てられているのは庭球場。コートを手芝にすることで、より快適にテニスを楽しめる環境が生まれ、人々の交流が深まっている。

近隣の人々が、よりテニスを 楽しめる環境を実現

スポーツ振興くじ(toto-BIG)の収益が役立てられた地域スポーツ施設整備助成事業でテニスコートを手芝に

「健康増進(生きがい)区として力を注ぐ」
スポーツ振興

子どもから高齢者まで、幅広い年代が楽しむことができるスポーツ。その活動は、健康増進だけでなく、生きがいや仲間づくりなど、生涯生きていく上で心を豊かにしてくれものでもある。目黒区はこのような思いを背景に、スポーツ振興はまちづくりやコミュニティ形成の上でも、推進をあげて積極的に推進すべき重要な柱のひとつだと考えてきた。

今後は、「いつでも、どこでも、だれもが参加できる生涯スポーツ」2地域におけるスポーツ資源の共有と活用、「コミュニティ」の形成、健康づくり、福祉にもつながるスポーツ活動の3つの観点から、スポーツ振興をさらに区全体の大きな取り組みとして掲げていく予定だ。

人工芝で稼働率アップ
より多くの人が
利用できるように

碑文谷公園の庭球場には、6面のテニスコートがある。今までそのうちの2面はクレー(土)コートで、雨が降ると利用できなかつたり、雨が上がっても利用できるまでに時間がかかるなど



使用後、ブラッシングをしてコート面を戻す。使用者もコートも大切にしている。

の課題があった。残りの4面についてはすでに人工芝コートであつたものの、10年以上が経過し、摩耗や破れなどの老朽化が著しかった。人工芝を新しく張り替える必要があつたがその費用をどう確保するかを検討していたところ、これらがスポーツ振興くじの助成金対象になつていることが分かり、さっそく申請した。

「スポーツ振興くじの助成金で、6面すべてを新しく砂入り人工芝コートにすることができた。水はけがよいので、天候は左右されることがこれまでより少なくなり、より多くの方に利用していただけるようになりまし

た。このテニスコートの使用は基本的に区民が中心で、抽選が必要だ。その倍率は約4倍だからこそ稼働率があつた。そこで利用者からも大変喜ばれています」と話してくれたのは、目黒区教育委員兼事務局長 塚治彦さん。

「心さへの負担を軽減」
天然芝コートに比べ維持管理が容易「見た目がきれい」というように、人工芝は、プリーする側にも管理する側にも利点が多いように思います。



スポーツは、人と人との関わる力を育て、地域コミュニティを活性化させる原動力になる。こうしたスポーツの効用は地域振興にもつながっていく。世帯を超えて地域の人々が集い、スポーツを快適に安心して行える環境づくりは、これからの時代、ますます必要になつてくるだろう。

私たちが購入しているスポーツ振興くじの収益は、このような場面でも、多くの人々を支え続けている。

あなたのさまざまなスポーツ振興に役立てられている スポーツ振興くじ **toto BIG** の助成金

スポーツ振興くじ収益金



スポーツ普及に対する助成

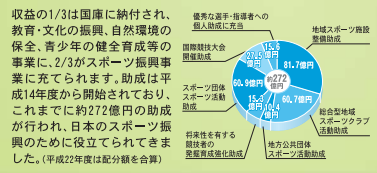
- 地域スポーツ施設整備助成**
グラウンドの芝生など、地域住民が身近にスポーツを楽しむための設備の整備を図ることを目指す。
- 総合型地域スポーツクラブ活動助成**
地域住民が気軽にスポーツを楽しむ総合型地域スポーツクラブの育成を図ることを目指す。
- 地方公共団体スポーツ活動助成**
スポーツ教室・大会等の開催など、地域住民のスポーツ活動の活性化を図ることを目指す。
- 国際競技大会開催助成**
国内での国際競技大会の開催を円滑に行うことを目的とする。



競技力向上に対する助成

- 将来性を有する競技者の発掘育成強化助成**
将来性を有する競技者を発掘し、育成を強化する体制の整備を図ることを目的とする。
- スポーツ団体スポーツ活動助成**
スポーツ教室や大会の開催、スポーツ指導者海外研修など、国内でのスポーツ活動の活性化を図ることを目的とする。
- 国際競技大会開催助成**
オリンピック競技大会、アジア競技大会など、国内での国際競技大会の開催を円滑に行うことを目的とする。

スポーツ振興くじの収益による助成は、平成14年度から開始されています。これまでに約272億円の助成を行い、日本のスポーツ振興に役立てられてきました。



生涯スポーツ社会 を目指して

2010年、日本国民はバンクーバー五輪とサッカーワールドカップ(W杯)南アフリカ大会での日本代表の活躍に、沸き返った。両大会を現地で取材し、スポーツが持つ驚くべきエネルギーを改めて実感した。この「見るスポーツ」の感動を、自らが「行うスポーツ」への動機付けに出来ないだろうか。子どもも青年も、熟年もお年寄りも、都会の人も地方在住者も、誰もが、どこでも、自分に適したスポーツを楽しむ社会は、国民を健康にし、幸福にする。文部科学省が打ち出した(スポーツ立国戦略)での一掃手の戦略は「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」だ。21世紀における、我が国でのスポーツの地位を高めて行きたい。

読売新聞東本社編集局部長
(五輪担当・サッカー推進事務局)
塩見要次郎